

頑張れ 街の本屋さん

中垣 芳隆

南都 7 大寺をはじめ数々の寺社仏閣に代表される歴史文化遺産豊かな奈良市内に生まれ、その後堺市内に居を構えて 30 数年になる。日々の生活に不足はないが、いかんせん丘陵地を住宅地にしたニュータウンと言われた土地柄から歴史が浅く、いにしえを訪ねる場所が少ないのが残念なところ。そのようなことから、老母の顔を見がてらちよくちよく奈良を訪れ散策するのだが、近鉄奈良駅を降りて正面に若草山を望むと左右に商店街がある。長い時間の経過のなかで、幼いころの記憶を辿れないほどに通りの模様は様変わりしているのだが、とりわけ昔よく立ち読みをして時にしかられた「街の本屋さん」が 3 軒ともなくなっていることに一抹の寂しさを禁じ得ない。

さて、ここで拙文をお読みいただいている方に質問です。

日本著者販促センターの調べでは、2000 年には日本全国の書店数はおよそ 21500 店あったとされていますが、2015 年の調べでは何店でしょうか？

ア 17500 イ 15500 ウ 13500

近年のジュンク堂をはじめとする大型書店がたくさんできたこと、Amazon などのネット書店が勢いを増し、kindle、iPad などのタブレットの普及に伴い電子書籍の売り上げが飛躍的にアップするいま、小規模書店は苦戦を強いられ、正解はウと、この 15 年で 6 割強にまで減少したとのこと。更に毎日新聞の紙面によると、332 の市町村には書店がない、言い換えれば約 19% の市町村には書店がないらしい。

こうした中で本学から歩いて 10 分ほど、地下鉄谷町六丁目駅 7 番出口を上がってすぐのところに、昔ながらの店舗でがんばる「街の本屋さん」の代表格「隆祥館書店」がある。勤め帰りによく寄るのだが店主の二村善明さんが今年 2 月に 79 歳でお亡くなりになり、今はお嬢さんが引き継いでおられる。故二村さんが、生前つづられた 1800 文字のメッセージ「今、書店として考えること」がちょっとした話題となっている。

その中から二つばかりを紹介すると、

・昭和の時代を懐かしむほのぼのとした記述

《当時は自転車で仕入れに走っておりました、朝仕入れから帰って来ると店頭でそれを待ちかねる子供たちが歓声を上げて本や雑誌を受け取り付録も自分たちで挟み込むのを手伝ってくれ、買ってゆくというのが日常の時代さえありました》

・そして、書店の役割と心意気

《子供たちに読書を広め、その読書力に貢献し、遠くまでゆくことのできないお年寄り

の読書の力添え、作家と読者への橋渡し、そしてその心の交流、出版をただ売ればよいという商業主義の餌食にすることなく、出版を文化として作家を支え、読者が出版を育てるこの仲介者が書店と考えております》

(なかがき よしひろ 教授／教員養成センター)
